

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

| | | | | | |
|-------|----------------------|---------|--------------|-----------|--|
| 団体名 | 湯沢市役所 | 代表者名 | 湯沢市長 佐藤一夫 | | |
| 担当者部署 | ふるさと未来創造部 | 連絡先電話番号 | 0183-56-8387 | | |
| 担当者役職 | 班長 | 担当者氏名 | 皆川 典子 | 連絡先E-mail | |
| 住所 | 0128501 秋田県湯沢市佐竹町1-1 | | | | |

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

| | |
|---|--|
| アドバイザー | 河井 孝仁 |
| 評価 | 大変よい |
| 上記評価の理由（どのよう なところがよ かったか等詳 細に） | 「自治体における戦略的広報のすすめ方」というタイトルでの講演と、講演に基づくワークショップを行っていただいたが、伝えたい相手を意識し、望む結果を導くための手段や自らの行動を、順序立てて意味を考えながら知恵を絞って行っていかねば伝わらないし、相手の行動変容を起こすことができないということをしっかり理解できました。また、発表するごとにグループ内で発表の結果や他グループの良いところ等を共有して次の発表に活かすという流れが、より理解を深めたと思います。 |
| アドバイザーへの要望事項 | 情報発信について迷ったとき等には、またご教授いただきたいと思いました。 |

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

| | | | | | |
|----------------|---------------|--------------|--------------|------------|----------|
| 3-1. 対応日・時間 | 派遣日予定日（申請書より） | 支援内容（申請書より） | 期日・支援内容の変更あり | WEBでの手続き日 | 受付番号 |
| | 令和6年2月1日 | 支援・助言(実地) | 有 | 令和5年12月14日 | 1094 |
| | 実施した派遣日 | 実施した支援内容 | 開始時刻 | 終了時刻 | 内休憩時間（分） |
| | 令和6年2月2日 | 講演（実地） | 10時30分 | 16時00分 | 60 |
| | | | | 活動時間（分） | 270 |
| 3-2. 派遣場所 | 会場名 | 湯沢市役所 | 最寄駅 | 湯沢駅 | |
| | 所在地 | 秋田県湯沢市佐竹町1-1 | 最寄駅からの交通手段 | 徒歩 | |

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

| | | |
|------|---------------------------|---|
| 掲載許可 | <input type="radio"/> 掲載可 | https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/ |
|------|---------------------------|---|

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

| | | |
|--|--|-----|
| 5-1. 支援を受けた対象者 | 属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】 | 人数 |
| | 湯沢市役所職員、地域おこし協力隊、集落支援員 | 15人 |
| 5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果 | | |
| 事業の課題・問題点 （具体的にご記入下さい） | 現在、市のDX推進計画を策定しており、「人のつながり」を基盤と位置づけ、まずは市役所からの情報発信力を強化し、次に市民が市役所に簡単に意見を伝えられる環境づくりに取り組み、将来的には、デジタルを通じて、距離や雪の障壁を越える全く新しい市民同士のつながりの創出を目指している。 現状、LINEやFacebook、Xなどを活用した情報発信を行っているが、職員によってはデジタルに苦手意識があることから、広報紙やホームページと同じような内容での発信にとどまっており、届けるべき相手を見据えた情報発信とはなっていない。 | |
| 支援により目指す成果 （具体的にご記入下さい） | 将来的には、デジタルを通じて、距離や雪の障壁を越える全く新しい市民同士のつながりの創出を目指していることから、広報紙を縮小していくと同時に、SNS等デジタル媒体での発信力を強化していきたい。自分の業務を起点にデジタル広報の基礎知識・考え方を習得してもらい、また原課からの相談にも広く応じられるよう、SNSの特徴に応じた情報発信の手法を併せて習得してもらいたい。 | |
| アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい） | どうしたら市民が幸せになれるかを考えて情報発信するのに、必ずしもSNSでなくてもいい。シェアしたことをまとめることができる便利なものではあるが、SNSは手段であり、行政だけではなく、受けた市民が自ら情報発信をしたくなる仕掛けを作り、行政が行わなくても拡散されていくようにすれば、手間が減る。今回は、イベントを考え、秋田県民に認知してもらい、ターゲットの行動変容を促す広報について、グループごとにワークショップで手法を考え、発表しました。 | |

| | | |
|---|--|-------------------|
| 支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい) | 広く市民へ、ただ情報を流していただけだと感じ、ターゲットをの属性をとらえ、望んでいる行動は何かを考えることで、関心を持ってもらうような刺さるメディアを使い、より深く情報を知るための場所を提供して情報をシェアしてもらい、さらに拡散をねらうといった発信を行っていきます。 | |
| 具体的な成果物 | 最も当てはまるものをリストより選択下さい。 | ⑤組織業務改善ができた |
| 改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください) | 今回の研修会は、市の防災訓練と日程が重なってしまい、SNSに苦手意識を持っている高い年齢層の職員が研修を受けることができなかったため、情報発信の手段等について決定権がある管理職対象の研修会を行いたい。 | |
| アンケートの内容と分析結果 | 講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 出席者が少なく、口頭で個々に感想を聞くことでアンケートに代えた。業務によって、情報発信する相手や内容が異なるため、SNSで積極的に発信する部署もあれば、紙媒体が中心の部署もあるが、今後はSNSでの発信が中心になることは間違いないので、双方を使って効果的な発信ができるようもっと学んでいきたいということでした。 | |
| 5-3. 今後の計画 | 最も当てはまるものをリストより選択下さい | ④予算以外で、今後取組む事項がある |
| 事業の最終的な目指す姿 | 広報紙での情報発信中心から、苦手意識を減らして市公式SNSを活用した情報発信が中心になるよう、職員全体の意識を変える。 | |

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

